

市議 24氏
町議 14氏

前半戦に続き後半戦でも 共産党前進38氏当選

日本共産党の当選者(福岡県・後半戦)



春日市(20) よしい恭子 筑紫野市(22) しろま広子 筑紫野市(22) 古賀しんご 太宰府市(18) 藤井まさゆき 太宰府市(18) 神武 あや



大野城市(20) 松下 真一 朝倉市(18) わだ 庄治 古賀市(19) うちば恭子 志免町(14) すえふじ省三 篠栗町(12) 山田ただし



須恵町(14) 児玉もとむ 芦屋町(12) 川上 誠一 水巻町(16) 小田 和久 水巻町(16) 岡田えり子 水巻町(16) 井手さちこ



岡垣町(13) 平山まさのり 速賀町(13) たしろ順二 直方市(19) 渡辺かずゆき 直方市(19) なす 和也 直方市(19) かわの祥子



鞍手町(13) 宇田川 亮 鞍手町(13) あじさか省治 飯塚市(28) みやじまつや子 飯塚市(28) 川上なおき 嘉麻市(18) あらいたかお



久留米市(38) かい征七生 久留米市(38) 金子むつみ 八女市(26) 松崎たつよし 八女市(26) 森しげお 筑後市(19) 貝田よしひろ



大牟田市(25) 高口こうじ 大牟田市(25) はしづみ和雄 大牟田市(25) 北岡 あや みやこ町(16) くまがいみえ子 吉富町(10) きしもとかよ子



田川市(20) さとう俊一 田川市(20) かきた孝子 広川町(補選・定数1) えとう龍彦

いつせい地方選・後半戦の結果について

2015年4月27日

日本共産党福岡県委員会

いつせい地方選挙後半戦(首長・一般市議・町議選)は26日、投・開票され、日本共産党は市議会・町議会に立候補した38人が当選、前半戦(4議席増)に続き、後半戦でも躍進しました。

市議選では、朝倉市で空白を克服、合併・新市発足後、初の党市議誕生となりました。直方市で1議席増の3氏が当選、久留米市と飯塚市で各1議席増の複数議席を獲得し、嘉麻市で議席回復(空白克服)するなど、立候補した24氏が全員当選、5議席増を果たしました。

町議選では、定数1の広川町議補欠選挙で元職が当選、党議席を回復したのをはじめ、篠栗町、須恵町、吉富町で空白を克服し、町議選全体で3議席増の14氏が当選しました。福智町の現職と川崎町で空白克服をめざした新人は、きん差で及びませんでした。

投票率が低下するなか、市議選・町議選とも、日本共産党は全体として得票数・得票率とも伸ばしました。ご支持ご支援いただいたすべてのみなさんに心より感謝申し上げます。

後半戦全体の政治論戦で日本共産党は、「安倍暴走政治ノー・『戦争立法』ストップ」を大きく掲げ、安倍暴走政治からくらしと平和をまもる地方政治への転換を、強く訴えました。また、「国・県いなり」の「オール与党」と対決し、住民の命と暮らしを守る日本共産党議員の値打ちを浮き彫りにした論戦をおこないました。この訴えは、前半戦に引き続き、広範な有権者の共感・期待を集めました。

また、地方政治をめぐる論戦では、「子ども医療費(通院・入院)の中学卒業までの無料化」、「介護・国保の負担軽減」、「高すぎる水道料金引き下げ」などの切実な住民要求の実現を訴えました。大型開発の浪費や福祉きりすてでためこんだ「基金」を活用すれば、切実な住民要求実現の財源はあることを明示し、財源論でも論戦をリードしました。

一昨年の参院選、昨年の衆院選、今回前半戦に続く日本共産党の前進は、安倍暴走政治に対する明確な審判です。日本共産党福岡県委員会は、躍進した国会議員団・県議団とも力を合わせ、掲げた公約の実現、来年夏の参院選でのさらなる躍進へ、全力で奮闘する決意です。

県内の後半戦 8議席増を果たす 市議全員当選で5議席増、町議3議席増



2015年4月号外

◇日本共産党福岡県委員会の見解を紹介します。
◇発行/福岡民報社◇1964年12月9日第3種郵便物認可
◇〒810-0222 福岡市中央区薬院3-13-12 大場ビル3階
◇お問い合わせTEL092-411-5131(代表)

電話 092-411-5131 info@fjcp.jp
ホームページ http://www.fjcp.jp/